

2020年度（令和2年度）

前期日程

小論文（40分）

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、解答用紙の該当欄に志望コース名及び受験番号を記入しなさい。
- 3 解答用紙の※を付した欄には、何も記入してはいけません。
- 4 解答は、小論文解答用紙を用い、400～500字以内にまとめなさい。
- 5 選択解答する課題の番号を解答用紙の選択課題番号欄に必ず記入すること。

（例）

選択課題番号
1

- 6 解答は、解答用紙の指定された欄に記入しなさい。
 - 1) 解答は横書きで、文字はていねいに、はっきり書くこと。
 - 2) 句読点は、1字として1マスに入れること。
 - 3) ローマ字、数字を使用するときは、マス目にとらわれなくてよい。
 - 4) 改行はしないこと。
- 7 下書き用紙は回収するが、採点は解答用紙のみで行う。
- 8 試験終了後、この問題冊子は持ち帰りなさい。

小論文課題

次の3つの課題から1つを選択して解答すること。

- (1) 総務省統計局の調査によると、日本の65歳以上の高齢者は、2018年現在で3585万人であり、総人口に占める割合は28%になった。医療の向上に伴い、人間の平均寿命は1950年と比較すると約30年も伸びている。ここには少なからず工学的な技術も貢献している。この貢献内容に関して具体例を示し、その技術のさらなる改善点を論述しなさい。
- (2) 昨年、イギリス議会において、著名な環境活動家がCO₂の排出を減らすのではなく、無くすという観点から議論を進める必要性を主張した。実際、地球上のCO₂の排出量は減少するどころか増加し続けている。この主張は技術的に可能かどうかについて自分の意見を記述し、その理由を説明しなさい。
- (3) 生物多様性を維持することは、持続可能社会を実現するために重要である。しかし、生物多様性の維持と工業技術の発展の両立が困難である例が見受けられた。今後、これらがどのような関係に発展すべきか、具体的な例を挙げてあなたの考えを論述しなさい。